

糸魚川市中心市街地の まちづくりへの提案

—平成 18 年度ゼミ研修旅行報告書—

2006 年 10 月

金沢大学 都市・地域計画研究室

は じ め に

21 世紀の都市・地域づくりは、市町村が主体となり、それぞれの地域における資源や人材を生かして創意工夫のもとに進める必要があります。私たちの研究室では、このような問題意識のもとに、特徴的なまちづくりの工夫を行っている市町村を訪問し、まちづくりに関するテーマのもとに調査を行い、実態の把握と提案などを行う、学生諸君による自主的な研修を企画しました。今回は、新潟県糸魚川市を選定し、「歴史的町並みについて」、「糸魚川市のまちづくり活動の実態と支援について」、「車いす利用者に配慮したまちづくりについて」を取り上げ、それぞれグループごとに調査を行いました。

調査を進めるに際して、糸魚川市建設産業部商工観光課、同部建設課などの方々に多大なお世話になりました。また、各グループの現地調査に際しては、住民の方々からのご意見をうかがう機会を持つことができました。聞かせていただいたお話の内容とともに、地元の方々に暖かく接していただいたことに学生諸君はとても感動しているようです。お世話になった方々に心からお礼を申し上げます。

本レポートは、各グループが、調査結果にもとづいて、その概要、感じたことや若干の提言についてとりまとめたものであります。短時間の調査であったため、必ずしも的確なものばかりではないかも知れません。しかし、プランニングを学ぶ者としての若い感性が垣間見られるように思います。少しでも参考にしていただくものがあればまことに幸いです。

最後に、今回の企画からレポートのとりまとめまで担当した研究室の大学院博士前期課程 1 年生諸君に賛辞を呈したいと思います。また、今後の糸魚川市におけるまちづくりのますますの発展を心から祈念いたします。

平成 18 年 10 月

研究室を代表して

金沢大学大学院教授

川上 光彦

2006 年度ゼミ研修旅行 参加者リスト

教 授	川上 光彦
助教授	沈 振江
講 師	小林 史彦
大学院博士後期課程 2 年	高木 一典
	陳 萍
大学院博士前期課程 2 年	亀山 博司
	川村 一平
	小和田雅史
	中原 聖
大学院博士前期課程 1 年	松谷 圭祐
	生駒 奉文
	恒川 真康
	中野 達也
工学部土木建設工学科 4 年	西本 瑛一
	串田 隆昭
	竹迫 圭祐
	豊島 祐樹
	西出 明生
	深谷 巡
	藤田 和也
	本舘 孝文

以上 21 名

目 次

調査テーマおよび概要・・・・・・・・・・・・・・・・	4
調査日程・・・・・・・・・・・・・・・・	4
各班の調査報告・・・・・・・・・・・・・・・・	5
雁木を生かしたまちづくり・・・・・・・・	5
糸魚川市のまちづくり活動の実態と支援について・・・・・・・・	22
車いす利用者に配慮したまちづくりについて・・・・・・・・	37
糸魚川市スナップショット・・・・・・・・	53
あとがき・・・・・・・・	55

調査テーマおよび概要

Aグループ

班員：亀山・川村・中野・藤田・西出・陳

テーマ：雁木を生かしたまちづくり

概要：雁木造りの造り酒屋など糸魚川市における伝統的な造りの建築物の現地調査・ヒアリングを行い、現地住民の方々の意識を調査するとともに、各種資料より、歴史的な経緯などを踏まえながら現在の人々の暮らしとの関わりや今後について考察する。

Bグループ

班員：小和田・中原・恒川・豊島・本館

テーマ：糸魚川市のまちづくり活動の実態と支援について

概要：糸魚川市における NPO などのまちづくり団体の活動実態を調べるために、まちづくりサポートセンターにおけるヒアリング調査と現地調査を行う。

Cグループ

班員：松谷・生駒・西本・串田・深谷・竹迫

テーマ：車いす利用者に配慮したまちづくりについて

概要：糸魚川市内を実際に車椅子を用いて歩き、バリアフリーの整備状況を体験・検証し問題点の抽出を行う。

調査日程

1日目

13:00 糸魚川市役所訪問

建設産業部商工観光課主査 林壮一氏、同部建設課主事 倉又直樹氏より説明を受け、質疑応答を行った。なお、議会開催中のため、課長さんなどは対応できないとのことであった。

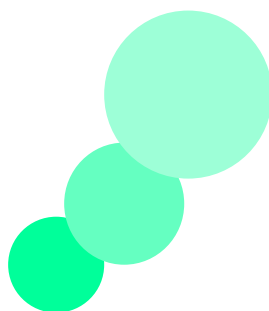
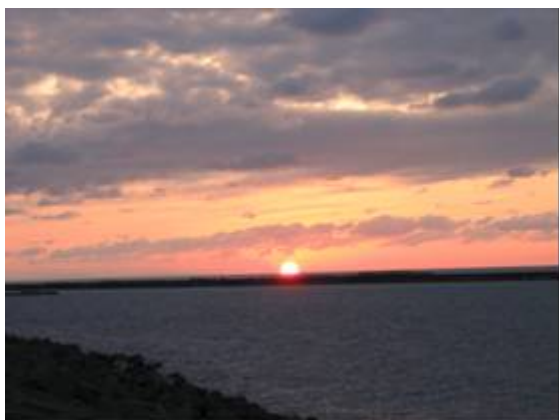
15:00 一日目調査開始

17:30 一日目調査終了、旅館集合、グループごとに調査とりまとめ、

21:30 旅館にて第一次プレゼンテーションと全体討議

2日目 9:00 二日目調査開始（各グループで昼食）

13:00 二日目調査終了（宿泊施設集合）、帰路へ



雁木を生かしたまちづくり

Aグループ

D 2 陳 萍



M 2 亀山 博司 ・ 川村 一平



M 1 中野 達也



B 4 西出 明生 ・ 藤田 和也



はじめに

本調査は、糸魚川市に古くから残る歴史的な資産を把握し、糸魚川市の特色を生かしたまちの活性化の方策を考察するために行ったものである。事前調査や市役所での説明会に加え、自分達でまちなかを見て回り、糸魚川の歴史的な資産を把握する。その上で、今後の糸魚川市の活性化への方策を提案できればと考える。

調査内容

調査は、「資料調査」・「観察調査」・「ヒアリング調査」によって行った。

まず「資料調査」により糸魚川市の歴史や風土の把握を行う。次に「観察調査」により、糸魚川市の町並みについて、我々の視点で見たことや感じたことをまとめる。また、「ヒアリング調査」により、実際に居住する住民の方が糸魚川のまちの現状をどう考えているかを把握する。そして、それらを踏まえ提案を行う。

糸魚川市住民ではない我々の視点（**外からの視点**）と糸魚川に古くから住む住民の視点（**内からの視点**）の両方を踏まえることで、糸魚川市の活性化に繋がる方策を提案できるのではないかと考える。

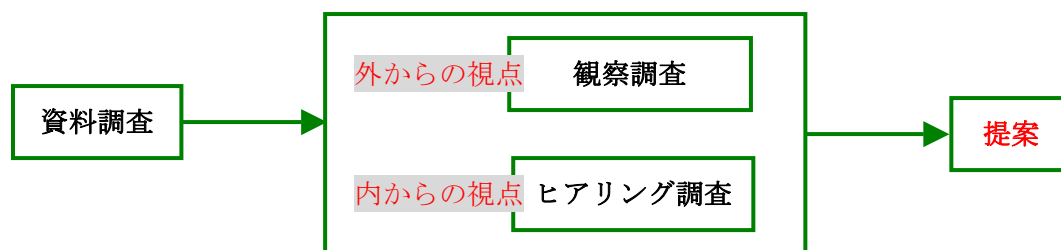


図-1 調査フロー

調査スケジュール

【1日目】

1日目は、市役所にて糸魚川市の説明を聞いた後、調査を開始した。調査は、市役所でのヒアリングより、雁木が多く残っている通りである雁木通りと白馬通りを中心に調査を行うこととした。

今回、観察調査をする上で、「雁木の残存状況」や「町並みの連続性ができているか」といった観点から調査を行った。また、住民の方へのヒアリングを行い、糸魚川のまちについて住民の方がどう思っているのかを把握した。

【2日目】

2日目は、先生方からの提案もあり、大通りではなく、細街路を中心に調査を行った。この調査でも、1日目と同じく「雁木の残存状況」を中心に観察を行った。またそれと同時に、雁木だけではなく糸魚川のまちに古くから残る町並みの観察も行った。

調査は以下のルートで行った。



図-2 調査ルート

1. 資料調査

糸魚川市の概要、現状、まちづくり計画をインターネットやパンフレット等を用いて検討したところ以下のことがわかった。

【糸魚川市の概要】

糸魚川市は人口 51,818 人（2005 年 3 月 1 日）面積 746.24km²（境界未定部分あり）の都市で新潟県の最西端に位置し、南は長野県、西は富山県と接している。北陸地方を結ぶ国道 8 号と長野県松本地方を結ぶ国道 148 号の結節点、北陸本線と長野県松本地方へ伸びる大糸線の結節点に位置しており、新潟・富山・長野を結ぶ結節点として重要な位置であり、北陸自動車道や地方港湾姫川港が整備されており、広域交通網の充実した地域である。

また、市域の 80%は山林で占められているが、中部山岳・上信越高原の 2 つの国立公園と白馬山麓県立自然公園があり、自然に恵まれたところである。日本列島を分断するフォッサマグナ（糸魚川・静岡構造線）の北端に位置している。

注) <http://chushinshigaichi-go.jp/plans/plan316.htm>内閣府大臣官房中心市街地活性化担当室ホームページより引用

【糸魚川市の現状】

糸魚川市の中心市街地の現状としては、上越市、富山市等の競合都市が 50 km以上離れていることや、道路等の交通アクセス網の未整備により、永い間、消費者の市外流出や市内流入のほとんどない閉鎖型商圈を形成してきた。

しかし、昭和 60 年 3 月の郊外型ショッピングセンターの進出を契機として消費者の流れが大きく変化し、また、昭和 63 年 7 月の北陸自動車道の全面開通により、閉鎖型商圈が崩れ、消費者の近隣競合都市への流出が続いている。

特に、中心商店街においても、昭和 50 年代までは賑わいを呈していたが、多様化する消費者ニーズ・ライフスタイルの変化に対応できず、近年停滞・衰退現象が著しい。

注) <http://chushinshigaichi-go.jp/plans/plan316.htm>内閣府大臣官房中心市街地活性化担当室ホームページより引用

【まちづくり計画】

糸魚川駅から北に 300m 程いくと海があり、海沿いに国土 8 号線が走っている。駅から国道までの間に、本町通り商店街、駅前銀座商店街、中央通り商店街、広小路商店街、白馬通り商店街の商店街がある。本町通り商店街（雁木通り）は旧加賀街道が横町から大町にかけて東西を直線的に走る中で、本町の商店街に昔ながらの雁木が保存され、さらに町

並み景観の修復と特色あるまちづくりが 平成 6 年 3 月 竣工した。

雪国文化を利用した和風アーケードに美しい切石の石畳が敷かれ、木製の温かさ、やさしさを表した雁木、商店の特徴がひと目でわかる絵馬型看板、口上書など、さまざまな工夫がなされている。ところどころに配された石像八福神は、七福神に地元の奴奈川姫を加えてのアイデアである。



写真 1 八福神

雁木を「願木」と読み替えて、誰でも願いを絵馬に書いて八福神に託すると成就すること間違いなしといわれている。また、平成 6 年「まちづくり功労建設大臣賞」を受賞した。

また、糸魚川市はマイカーを持っている人が多く、住民意識の中で路上駐車が当たり前になっている部分がある。そこで市では駐車禁止解除に向けた検討もおこなわれている。

さらに、商店街の空家を無くすために市が補助をおこなってチャレンジショップを開いている店もある。

他にも駅北まちづくり実行委員会という組織があり、今年度から市よりまちづくり交付金事業の採択を受け糸魚川駅北地区の中心市街地（面積 25ha）で「交流と発見のある、安心して歩けるまちなかづくり」を目指し、4 年間の計画で事業が実施されている。

事業としては賑わい創出社会実験や市民まちづくり活動などのソフト事業とバリアフリー整備やお宝案内看板等整備などのハード事業がある。



写真 2 絵馬型看板

注) 一部<http://hamad.web.infoseek.co.jp/0205/gangi.html>「はまだより」ホームページ

駅北まちづくり実行委員会活動レポートダイジェスト版 (H18. 9. 15) より引用

2. 観察調査

【雁木通り】



写真 3 雁木通り

雁木通りの雁木である。平成 6 年にこの通りで雁木の大規模改修が行われている。そのため、雁木自体は比較的新しく建築されたものであり、白木の部分にも完全に変色しきっていない部分が残っていることが分かる。



写真 4 雁木内の絵馬

雁木内は絵馬が取り付けられており、その商店の特徴が分かる絵馬型の看板となっている。一般的なプラスチック製の看板よりも温かみがあり、雁木の町並みにもよく調和しているように感じられる。



写真 5 石畳の舗装

平成 6 年の雁木の大改修では、雁木と合わせてその舗装部分も改修され、その多くが切り石の石畳舗装となっている。



写真 6 改修を受けていない雁木

この通りの雁木はほとんどが平成 6 年に改修されているが、改修されずに残っていると思われるものもある。平成 6 年に改修されたものは、どこか画一的であり、建物ごとの個性が感じられず、つまらない印象を受けてしまう。一方で、改修を受けていないものは柱の沓石、舗装など景観は乱していないが、その建物の個性を出しているように感じられる。



写真 7 デザインの異なった雁木

建物の外観自体が現代的なものに変わっており、それに合わせて雁木のデザインも瓦屋根ではなく、建物のデザインに合わせたものとなっている。

また、この辺り数軒は「造り込み式」という母屋の二階部分を突き出して天井とし柱で支えた、雁木の初期の形式となっている。



写真 8 ビルの前の雁木

現代的な建物の前面にも雁木がある例である。雁木空間の連続性のためには、雁木は存在していた方がよいと思われるが、その景観にはやや違和感がある。



写真 9 駐車場前の雁木

駐車場に雁木のみが残っているものがある。元々は雁木作りの建物が建っていたが、空き家となり、その後に駐車場としたものと思われる。その際、歩行者空間の連続性のために雁木のみを残した、もしくは平成 6 年の大改修の際に新たに雁木のみを付け加えたのではないかと考えられる。



写真 10 現代的なアパート

雁木通りの中にも雁木が完全になくなり、現代的な集合住宅が建ってしまっている部分がある。雁木はある程度その連続性が保たれてこそ、その利便性を発揮するといえるので、このような部分が増えてしまえば雁木の歩行者空間としての機能を低下させてしまう。



写真 11 雁木の連続性を失わせる建物

雁木の連続性を失わせてしまっている現代的な建物である。あくまでも私有地ではあるが、歩行者空間として成り立っている場所に、階段がせり出してしまっている。

【白馬通り】



写真 12 白馬通り

雁木通りでは、ある程度の連続性が感じられる程度に雁木が存在していたのに対して、白馬通りでは連続性が感じられるほど雁木が存在していない。また、平成 6 年の大改修もこの通りでは行われていない。



写真 13 月岡医院

白馬通りに残る雁木の一つである。二階部分はアルミサッシなど多少改装されているようだが、雁木部分にはあまり手を加えられていないようであった。舗装部分は石畳となっているが、平成 6 年に改修されたものとは違い、切石であったものが丸みを帯びており時代を感じる。



写真 14 池田屋酒蔵

200 年以上の歴史を持つ造り酒屋である。月岡医院と並んで雁木の連続性を生み出しており、昔の雁木空間をイメージすることができる。雁木通りの画一的な雁木とは違い、ここのものは個人の私有物であり、その家々の特徴が反映されていると感じる。

【線路南地区】



写真 15 雁木の名残

白馬通りを南下し線路を渡った地区である。この辺りでは、現代的な建物ばかりであり、古くから残る建物はほとんど見られなくなる。しかし、現代的な建物においても、そのデザインは変わったとしても、雁木という建築形態は残されており、雁木がこの地区に根づいていることが分かる。

【観察調査まとめ】

雁木通りには、多くの雁木が残っている。雁木の町並みは新潟県以外では見ることができず興味深いものである。しかし、その多くが平成 6 年に大規模に改修されているようであった。その改修の際には、雁木の歴史的経緯・価値などは十分考慮されること無く、その歩行者空間としての機能性を重視し、統一的なデザインの和風アーケードとしての改修が行われてしまったように感じられた。そのため、改修されたものは、幅員が拡張され利便性が増したとはいえ、どこか画一的であり、つまらない景観となってしまっている部分もある。

そもそも、雁木は私有財であり、個人の心意気で「雨や雪よけ」、「よったかり」などの空間を公共に提供しているものである。そのため、ある団体が主体となって一体的な改修を行うというより、個人が主体となってい、その維持活動がある団体がサポートするという姿勢が望ましいのではないかと考えられる。

また、現在抱える問題としては、現代的な建物の増加によって雁木の連続性が失われてしまうことや、空き家が増加し、それが駐車場になることにより雁木の連続性が失われることである。雁木は一定以上の連続性を保ててこそその利便性を発揮するものであるため、保存していく努力が必要である。

3. ヒアリング調査

【池田屋酒蔵さん（日本酒 謙信）】

- ・ 二百年以上の歴史をもつ酒蔵
- ・ 昔はもっと雁木造りがまちなかにあったが火事が起こり少なくなってしまった。
- ・ 雁木造りは今では上越のほうが多く残っているかもしれない。
- ・ 雁木造りを新たに整備したが、町が暗くなってしまうようなイメージもある。



写真 16 池田屋酒造

【京屋（ご祝儀品のお店）】

- ・ 駐車禁止の取り締まりが厳しくなり、路上駐車できなくなってしまったためお客さんが減ってしまった。
- ・ また、なんでも一箇所で手に入る大型ショッピングセンターが近くにできたためお客さんが減ってしまった。
- ・ 跡継ぎがいなかったため、やむなくお店を閉めるところも多い。
- ・ 糸魚川市の人たちは上越や富山へ買い物に行ってしまう。
- ・ 雁木造りを住民も出資して改修したが、あまり効果はない。
- ・ 「おまんた市」などを行うようになり少しは人が集まるようになったが、やはり若者が町に出てくることは少ない。
- ・ 町に年寄りが集まる場所が少ない。（⇒ チャレンジショップは安くゆっくりできるため、年寄りが集まる良い場所になっている。）
- ・ 年寄りが遊べて何か作業できる場所がほしい。
- ・ 糸魚川では古くから冠婚葬祭でエゴ草という海草を食べる。



写真 17 京屋

【ヒアリングのまとめ】

チャレンジショップや「おまんた市」などの取り組みでまちなかに人が集まり出したが、まだまだ大型ショッピングセンターにお客さんを取られてしまい、まちなかに賑わいは戻っていない。また、高齢化が進んでいるため、お年寄りが集まり、遊び、何かの作業に取り組める場所を提供してほしいとの意見もあった。

雁木造りの整備なども行ったが大きな効果は未だなく、雁木造り自体に対しても、町が

暗いイメージになってしまうといった消極的な意見もあった。

4. まとめ

【町並み改善への提案】

Aグループでは現在の糸魚川の町並みを改善するために、糸魚川のまちなかに古くからある雁木を利用して景観を改善するアプローチと、空き店舗を少なくすることによって景観を改善するアプローチを提案する。両アプローチともに現在の糸魚川のまちなかにとって必要なアプローチだと考えられる。特に空き店舗は町全体に寂しい印象を与えてしまうので早急に対策が必要である。下に両アプローチによる改善策をフロー図として示した。

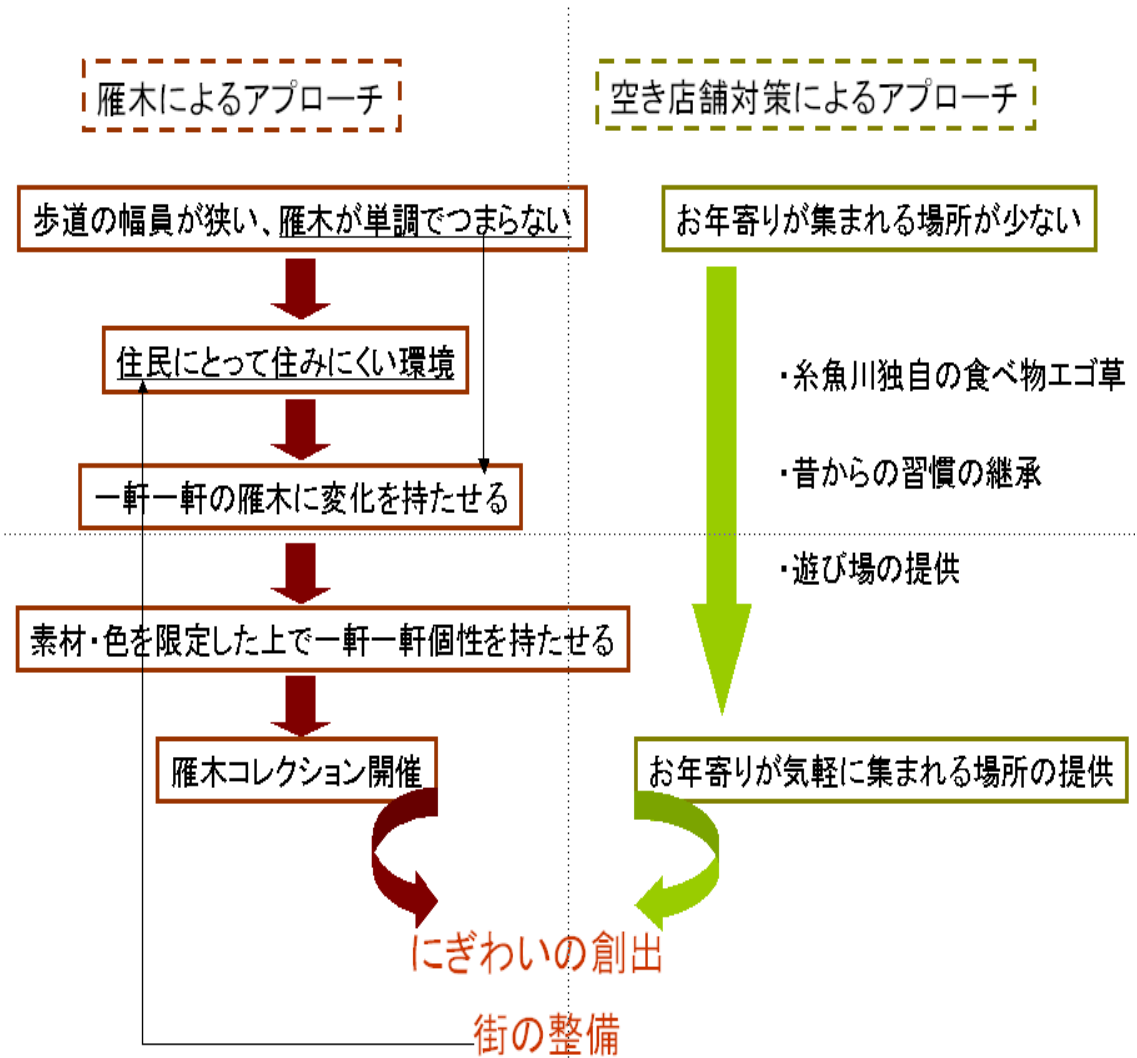


図-3 町並み改善提案フロー

【空き店舗対策によるアプローチ】

住民に対するヒアリングの中で、「お年寄りが集まれる場所が少ない」という意見が聞かれた。こうしたことから、空き店舗の対策としてお年寄りの集まることのできる場所の提供することを改善策として提案する。

具体的には、お年寄りが集まれる場所として、安価に料理を食べられる飲食店、喫茶店、ゲートボールなどのできる遊び場が考えられる。こういった中に、糸魚川で独自に食べられるエゴ草といわれる海草を料理として提供したり、昔からの慣習を上手に取り込むことができれば多くの客が店を訪れると考えられる。そして糸魚川のまちなかに多くの人が訪れるようになり、町ににぎわいが生まれると考えられる

【雁木によるアプローチ】

糸魚川のまちなかに古くからある雁木の歩道について住民から、「歩道の幅員が狭くなる」「段差が多い」「雁木が多いとまちが暗くみえる」などの意見が聞かれた。このように雁木は住民にとって住みにくい環境を提供してしまっている。また、私達も糸魚川のまちなかを歩いてみて、古くからある雁木については、見ていてすばらしいと感じたが、大火後に新たに建てられた雁木に関しては、同じような雁木がひたすら並んでおり、若干単調でつまらない印象を受けた。

そうしたことから、これから雁木の更新を行う際には、一軒一軒の雁木に変化を持たせてみてはどうかと考えた。一軒一軒変化を持たせる上でも町全体としては素材や色を限定することによって統一感を持たせ、統一感があるなかでも変化のある、歩いていて楽しいまちにできればいいと思う。また、一軒一軒の変化をもたせる具体的な方法としては、例えば雁木の支柱の部分に彫刻を施したり、雁木の屋根部分に装飾を施すといったことが考えられる。

そうした上で将来的に「雁木コレクション」というものが開催できないかと考えている。この「雁木コレクション」というのは糸魚川に住んでいる人々、糸魚川を訪れた人々に一軒一軒の雁木を見てもらい、どの雁木が素晴らしかったかを決めてもらい最も多くの支持を得られた雁木を表彰しようというものである。このようなイベントを行うことによって住民・観光客が雁木の素晴らしさを再認識し、より多くの人々が糸魚川を訪れるようになると思われる。そうしたことによって、まちににぎわいが生まれると考えられる。また、前述の空き店舗対策については高齢者が対象であったが、今回の雁木についてはより幅広い年齢層の人々が訪れるのでそうした人々を対象とした店舗を開業するのも有効であると考えられる。そうした上で、多くの人々が糸魚川を訪れることにより、財政が潤い、まちなかの整備を行うことによって前述の道路幅員が狭い、段差が多いなどといった住民の不満を解消していくことができると考えられる。

5. 感想

陳 萍（D2）

糸魚川市を見学して一番印象に残ったのは、伝統的な建築物の現地調査と現地住民の意識を調査したことです。造り酒屋、「京屋」、歴史民俗資料館などを訪ねて、伝統的な建築物の保存、まちづくりなどについて聞くことができたのはよかったと思います。この町は本当に小さい町ですが、山や海などの自然の風物もあるし、奴奈川姫にまつわる伝説もあります。でも町の中心部が多少、活気に欠けると感じました。また、見学で得た経験を踏まえ、いい提案をすることの難しさを感じました。グループの皆さんと一緒に見学して、色々なことを教えていただき、勉強になりました。

亀山 博司（M2）

今回、糸魚川を訪れて、歴史的な町並みが残り、落ち着いたのある町だなと感じました。また、夕方に町から海の方をみると夕日がとてもきれいで、自然にも恵まれた町だと思います。しかし一方で、町の活気が乏しく、少し寂しい感じがしました。また、車の通りが多く、路上駐車もあるため、歩行者にとっては危険で歩きにくいという感じも受けました。

糸魚川市ではチャレンジショップなど多くの事業を行い、市の活性化に取り組んでいました。また、市の職員の方の話からも、市が積極的に活動していることがわかり、こういった市が増えれば良い町が増えていくだろうなと感じました。ですが、調査を通じて、市役所の方と住民の方との考えの違いが少し感じられました。例えば、市では平成6年に雁木の改修を行い、町並みの保全を行いました。市民の方の中には、雁木が邪魔であるとおっしゃっていた方がいました。町並みの保全を行っていくことは町の魅力向上に繋がる大事な要素ですが、それにより居住性を失わせてはいけないと思います。また、駐車禁止の解除を求めていましたが、私自身の意見としては反対で、パーク＆ライドのような、まちなかから少し離れた駐車しやすい場所に駐車場をつくり、まちなかは徒歩か自転車（例えばレンタサイクル）、バスなどの公共交通でのアクセスにしていきたいと思います。そうすることで、危険も減り、住みやすくなるのではないかと感じました。

今後高齢社会を迎えるにあたって、まちなかの利便性の向上は急務であると思います。町並み・居住性の両方を求めることは資金などの面でも厳しいとは思いますが、住民を含めた市全体で町を盛り上げていってもらいたいと思っています。

最後になりますが、お忙しい中、我々の質問に丁寧にお答えいただいた糸魚川市職員の方、地域住民の方に心から感謝いたします。ありがとうございました。

川村 一平 (M2)

研修旅行以前は、糸魚川と言えば、高校の時に地理の授業で学んだ糸魚川・静岡構造線やフォッサマグナということぐらいしか思い浮かばず、その地の歴史や文化、生活ということなどは全く想像することができませんでした。実際に訪れてみると、雁木と呼ばれる私の生活にはあまり馴染みのない建築様式の町並み、赤レンガの立派な電車の車庫などがあり、大変興味深く感じました。雁木通りなど、交通量の多い場所では歩道がなければ危険で歩くことが出来ません。しかし、私有地を出し合い、雁木という空間を設けることで歩行者にとって安全な場所を提供していることに糸魚川の人たちの公共性に対する意識の高さを感じられます。また、海にも山にも距離的に近い場所であり、夕日が綺麗な自然に恵まれた場所であるようにも感じました。

一方で、いくつか気になる点もありました。まずは、雁木の最も残っている雁木どおりの雁木が画一的であり、どこか規格品のような印象を受けることです。市役所の方のお話によれば、平成6年に大規模な改修が行われたとのことですが、そのためのようにも感じました。改修の際には、雁木ごとの歴史的経緯・価値などは考慮されずに、その歩行者空間としての機能性のみを考慮し、ただの和風アーケードとしての改修が行われてしまっているのではないのでしょうか。そのため、アーケードとして機能性は増したとはいえませんが、規格品のような印象を与えるのだと思います。また、糸魚川市規模の都市では、どの都市でも抱えている問題として、中心市街地の衰退や若者の他都市への流出なども顕著に感じられます。今後、新幹線の整備に当たって赤レンガの車庫が取り壊されるということも大変残念に思います。生活のなかにあるものはあっても当たり前を感じてしまい、その価値を認識できないことは良くあることだと思います。しかし、身の回りにあっても当たり前のものでも、そこに価値、または問題点を見出し、活かしていくことがまちづくりの第一歩なのではないのでしょうか。今後、高架の新幹線が整備されることによって、街の景観や南北の繋がり、他都市との関係、市民の生活など大きく変わっていくことがあると思います。そこで、行政や商店街、住民が一体となってまちづくりを行い、糸魚川を魅力ある街にしていってほしいと思います。

最後に、お仕事中にも関わらず、糸魚川について説明し、また、私たちの質問にお答えくださった糸魚川市役所の方々、調査に協力していただいた地域住民の方々に心から感謝します。ありがとうございました。

中野 達也 (M1)

- ・ 初めて糸魚川に行き、雁木造りやヒスイなど見入ってしまう物がたくさんあり、非常に良い経験になりました。しかし、雁木造りの通りもせっかく整備してあるのに、空き地

や駐車場、ビル、アパートなどによって連続性が失われており、もったいないという気持ちを持ちました。

- ・ 聞き取り調査などを行うと、小さな町であるのにどこへ行くのも車で移動してしまう生活となってしまうっており、駐車場問題、大型ショッピングセンターの問題、市街地の空洞化など、どこの地方都市も抱える問題がありました。
- ・ しかし、糸魚川市には活用できる様々な要素があり、北陸街道や塩の道街道、雁木造りなど、まだまだ活かしきれていないものが多くあったというのが一番の印象でした。
- ・ 今後、新幹線が通り、人の流れがより一層激しくなることが予想されると思うので、まず、現在糸魚川に住む人たちが楽しんで生活できる環境を、ソフト面でもハード面でも整備していくことが一番重要であるのではないかと思います。

西出 明生（B 4）

- ・ 僕はこの糸魚川市を初めて訪れましたが、本町通り商店街（雁木通り）に行くと歴史的まちなみの雁木造りがたくさん残っていることに驚きました。中には新しい建築物があり、そこで歴史的まちなみの連続性が失われており残念だと思いました。また、駐車場の入口に雁木だけが残っていて少し異様に感じました。しかし初めてみる建築物などがたくさんあり、とても興味をもって調査を行うことができました。
- ・ 途中で住民の方に話を聞いたときも、住民の方は大変優しく我々に接してくれてとても親しみやすかったです。また今のまちづくりをどう思っているとかの住民の生の声がきけて、雁木造りの良い面だけでなく悪い面も聞くことができ、とても参考になりました。
- ・ 調査をおこなっているときに若者をあまり見かけなかったのも、市役所の方達から聞いていたの人が郊外に流れてしまっているという中心市街地空洞化の現状を感じました。
- ・ 観光も兼ねて翡翠園へ行ったときにすばらしい日本庭園などの風景をみることができ、とても感動しました。また、翡翠は光を通すといったことも初めて知りました。
- ・ 調査を通して糸魚川市は海に近いこと、富山と長野を結ぶ中継地点であることや翡翠の産地であるといった良い要素が多いと感じたので、特徴を活かしたまちづくりをおこなっていけば都市が活性化していくと思いました。

藤田 和也（B 4）

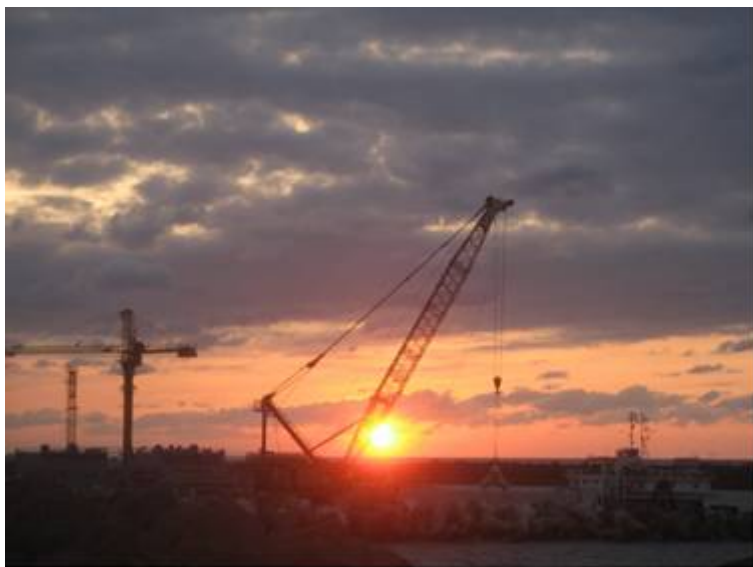
初日に糸魚川に着いて、糸魚川に対して空き店舗が多い、日中にも関わらず街中に人があまりいないという印象を受けた。

その後、市役所の職員の方から糸魚川のまちづくりの実態を聞かせてもらった。そうし

た上で糸魚川のまちなみを見てみると、糸魚川に古くからあり、最近大改修を行った雁木や糸魚川名産の翡翠、糸魚川のすぐ近くにある海、こういったものを活かしたまちづくりを行おうとしていることは感じ取れた。しかし、そうした努力がなされているのにも関わらずまちなかに人が集まらないのには別に要因があるのではないかと私は考えた。その要因として二つの事を考えた。

まず、一つに市役所の人のお話や、商店の方からのヒアリングで感じたことであるが、街中へのアクセスが駐車禁止の強化によって困難となった事である。駐車禁止の強化によって今まで商店の前に車を駐車してきた人々が格段に街中に来づらくなったことは容易に想像できる。二つめの要因として住民のまちづくりへの意識の薄さが考えられる。これは住民へのヒアリングの際に「雁木の整備を行ったのに人が来ない」という意見を聞いたときに思った事である。雁木というハード面の整備を行っても住民が主体的にまちづくりに参加しないとまちは活性化されるはずはないと感じた。

今回の研修旅行を通してまちづくりへの学習と対応を自ら行うことができ、非常に有意義な体験をできたと思う。こうした機会を今後も大事にして都市計画への学習を進めていきたいと思う。



「糸魚川市のまちづくり活動の 実態と支援に関して」



班員

小和田 雅史（修士2年） 中原 聖（修士2年）

恒川 真康（修士1年）

豊島 祐樹（学部4年） 本舘 孝文（学部4年）

調査目的

糸魚川市では、平成 17 年 3 月 19 日に能生町、糸魚川町、青海町が合併し、新「糸魚川市」が誕生した。新市の戦略プロジェクトには、まちづくりプロジェクトが掲げられ、まちづくりサポートセンターを設置するとされている。

私達は、今回このまちづくりサポートセンターという組織の実態とサポートを受けている NPO 団体の実態を把握するためにヒアリング調査を行った。

調査内容

市役所の方々による説明から糸魚川市の現状を伺い、そのあと「まちづくり活動」に着目した調査を行った。内容としては、まちづくり活動を支援しているまちづくりサポートセンター、支援を受けている任意の NPO 団体に対してヒアリング調査を行い、支援の実態と今後の可能性について調査することとする。

スケジュール

9/22（金）

糸魚川市役所商工観光課の方より、市の概要についての説明をいただく。その後、総務課、NPO 団体「まちづくりサポーターズ」にヒアリング調査

9/23（土）

実際にチャレンジショップを経営されている方々にヒアリング調査

調査ルート

別図参照



図 調査ルート

1. まちづくりサポートセンター

【概 要】

新「糸魚川市」の誕生前の合併協議で、新市建設計画を策定したが、この中で、新市の新たな可能性を求め3つの戦略プロジェクトを設定した。

このうちまちづくりプロジェクトでは、まちづくりサポーターセンターを設置しこれを核に市民がまちづくりに積極的に参加できる環境づくりを展開している。

まちづくりサポートセンターは、現在、糸魚川市役所2階・能生事務所・青海事務所の3ヶ所に設置されている。ここではまちづくり団体の会議や作業などに利用登録団体が利用できまた登録団体の情報の提供や情報の交換を行っている。利用できるものは会議机、作業机、事務用品、パソコン（インターネット）、ホワイトボード、レターケース、テレビ、ビデオ、まちづくり関連書籍などがある。



図 サポートセンターの設備 1



図 サポートセンターの設備 2

現在まちづくりサポートセンターで団体情報を提供しているのは64団体であり、またまちづくりサポートセンターの利用登録団体は47団体である。この中でもサポートセンターの使用頻度は団体によってばらばらであり、1週間に1回使用する団体もあれば1年間に数回しか使用しない団体もある。

【糸魚川市役所まちづくりセンターへのヒアリング調査】

- ・場所：糸魚川市役所2階
- ・時間：PM3:00～4:00
- ・対象：糸魚川市役所総務課
地域づくり室 小林強さん

質問1 まちづくりサポートセンターの具体的な支援内容とはどういったものか。

・HPにも記載しているように、主に市民からの相談に応じることやまちづくりに関する情報提供、活動に用いる資材の貸し出しなどを行っている。

質問 2 利用できる時間帯はいつか。

- ・原則として平日の 8:30～1700 です。土日、祝祭日、年末年始は利用できません。条件が整えば夜間の利用も可能です。

質問 3 支援団体の選定基準はあるのか。

- ・現在の所、特に設けていない。

質問 4 まちづくり活動支援においての問題点はどのようなものか。

- ・まず市役所にあるため、施設が利用にくい。そのため、会議室としての機能は薄くなっている。将来的には、まちなかにこのような施設をおいて 24 時間サポートできることが望ましい。

質問 5 まちづくりパワーアップ事業補助金とあるが、具体的に支援したものはどのような事業か？またどのくらいの予算がついているのか。

- ・事業としては、イベント的なものが多い。予算としてはソフト事業で 5～50 万、ハード事業で 20～100 万程度かかっている。

質問 6 まちづくりにおいて重要なことは何か。

- ・まず人と人との繋がりが重要になってくると思う。つまり行政と市民との信頼関係が重要になってくる。あとは資金の問題が挙げられる。

質問 7 まちづくり団体に望むことは何か。

- ・自主自立が重要。市と住民が協働でつくるまちでなくてはならない。



図 ヒアリング調査の様子



図 ヒアリング調査の様子

【感想・考察】

今回は、お忙しい中、ご協力して頂きありがとうございます。また頂いたたくさんの資料は、参考にさせて頂いております。まず、今回のヒアリング調査で一番驚いたことは、支援する団体の選定基準を設けていないという点である。また補助金の額も私達が知っている事例と比較して大きな額となっており、これによりまちづくり活動における敷居が低くなり、どんな小さな団体でも取り組んでみようという気持ちになるかと思う。ただこのままの状態が進んでいくと NPO 団体が市役所に依存していく傾向にあるかと思う。まちづくりとは協働で進めていくことが理想であり、今の糸魚川市における現状はそうした意味では、まだ第一段階にあるのかなと感じた。



図 ヒアリング調査後の様子

2. まちづくりサポーターズ

【概要】

市役所への訪問では、市がどのようにまちづくりを行う団体をサポートしているのかを中心に聞き取り調査を行った。では、市のサポート制度によってサポートされる団体の活動実態はどうなっているのだろうか。その具体的な事業内容とそれらの事業の中でどのようなサポートを受けているのか、現在抱えている課題を聞き取り調査し、市が運営するサポート制度が有効に利用されているのか、またサポート制度はまちづくりに結びついているのか考察する。

(団体名)	糸魚川まちづくりサポーターズ
(代表者)	五十嵐 仁
(会員数)	35名
(目的)	元気なまちづくりのための萌芽の土壌づくりと、自らもまちづくり実践に参加していくことを目的とする。
(事業)	1 新市「まちづくり論文」の提言趣意を施策に反映できるよう要望活動を行う。 2 応募者グループが提言趣意を自ら成果品となるよう実践する。 3 論文提言の一端を受託し、答申または成果品とする活動を行う。 4 行政のまちづくり活動に協力するとともに、糸魚川市「まちづくりサポートセンター」と連携を密にし、地域住民の積極的なまちづくりを支援する。 5 元気なまちづくりに資するため、新たな提言を考察し要望活動を行う。 6 まちづくりに積極的な団体等と連携し、共同活動を行う。 7 会員の研鑽を深めるため、分科会を設置し、いずれか一つに所属する。 8 論文要旨を講演し、または講師を招聘した勉強会を行う。 9 その他、本会の目的を達成するため必要な事業を行う。

【まちづくりサポーターズへのヒアリング調査】

- ・場所：猪又商店
- ・時間：AM16:30～17:30
- ・対象：まちづくりサポーターズ代表 五十嵐仁さん

質問1 具体的な事業内容。

・糸魚川活性のためのまちづくり論文の公募を行い、その受賞メンバー等まちづくりに対する意識の高いメンバーを募り、糸魚川活性化のための活動を行う。

・糸魚川市で行われる種々のイベント歳時記ポスターを作製し、地域の人々や周辺地域、

県外からの観光に地域イベントの参加を促す。

- ・糸魚川の地域資源活性化のため、糸魚川住民に地域資源、住民が感じる地域の宝物を公募し、糸魚川市かるたを作成など、多くの人に地域資源を知ってもらうための活動を行う。



図 ヒアリング調査の様子

質問2 どのようなサポートを受けているか。

- ・おもに金銭的支援を受けており、その支援金の用途は上記の事業等に用いられ、特に糸魚川かるたでは支援金の援助により、販売価格を1000円とすることが可能となった。

質問3 現在の課題。

- ・会員が高齢者ばかりで若い人材が少ない。また、糸魚川市自体に若い人材が少なく、予定している事業が多すぎることやイベントなどの催し物の際の人手不足が課題

質問4 市からのサポートに対して不満は？

- ・市からの資金的援助には満足している。

質問5 まちづくりサポートセンターを通してまちづくりに関する意見交換等、協働のまちづくりを行うことができるか。

- ・まちづくりサポートセンターを通して、各団体との意見交換等を行うことがあるが、糸魚川市内のまちづくりに意欲を持つ人々の中には多くの団体を掛け持ちする人も多く、そういった人々を通した各団体間の意見交流の方が多い。

- ・また、本団体では市役所から活動に関しての助言をもらうことはほとんどないが、お互いに口出ししあって無理に協働を行うよりもお互いが糸魚川のために考え、活動を行い、助け合える部分は助け合うことが重要だと考えている。

【感想・考察】

まちづくりサポートセンターの意見である各まちづくり団体一つ一つが考え、自立した活動を行うことが重要であるという理念どおりに、この団体では自立したまちづくりを行っていた。団体側からも市のサポートは無理に口出しをされるよりも、経済的支援や助言も適材適所の対応であり、お互いが良い関係を築いているといえる。

しかし、市と団体が不干渉なスタイルをとっているため、今後もっとお互いの協力が必要となる活動を計画した時にお互いのコミュニケーション不足による考え方の違いなどの

摩擦が生じることが予測され、よりよいまちづくりのためにはお互いが常に連携を取り合う必要があるのではないかとと思われる。

3. チャレンジショップ

【概 要】

近年、郊外への大型店の出店や消費者ニーズの多様化などを背景として、多くの中心商店街においては空き店舗が増加している。この対策として、行政、商工会、TMO（TMO とは Town Management Organization の略であり市町村の基本計画に従って、中心市街地の商業地全体をひとつのセンターに見立てて、総合的かつ独自の優れた計画によって推進される事業を実施し、中心市街地の運営・管理を行う機関である）等が空き店舗の一部を店舗開業の希望者に期間限定で賃貸するチャレンジショップ事業への取り組みが全国で進められている。チャレンジショップ事業では新しく小売業やサービス業のお店を開業しようとする人に対して、経営に関するアドバイスや、開業に必要な資金の支援を行っている。チャレンジショップ事業は店舗開業にチャレンジする方々と、空き店舗の解消を図る地元商店街が共にメリットを享受できる試みとして注目されている。



図 チャレンジショップ例 1¹⁾



図 チャレンジショップ例 2²⁾

例えばチャレンジショップでは図のように住民自らが製作した手芸民芸品を販売したり、いらなくなったものを買い取り安く売るといったリサイクルショップなどといった例が見られる。またそれ以外にも地域の特産物を利用した飲食店などの例も見られる。

ここで重要なことは店舗を経営する住民自らが主体となってやりたいことをやっていることであり、行政やTMO等はそれがどの程度本気であり、どの程度の収入が見込めるかなどを審査し、その審査が通ればその事業を展開できるということである。

このような活動を通して買い物だけでなく広くはもっと能動的な中心市街地の活性化が



図 チャレンジショップ例 3³⁾

なされていくことが望ましい。

ここ糸魚川でもチャレンジショップ事業が行われており、空き店舗の多い通り（通称シャッター通り）を活性化させようとする試みがなされている。糸魚川では平成17年に3店舗同時にチャレンジショップがオープンし、これまであった1店舗を含む4店舗に、そして今では合計5店舗に増加している。糸魚川のチャレンジショップ事業で注目すべき点は店舗のオーナーが全て女性であるところである。女性独自の視点から店舗経営を行い、それが糸魚川のまちづくりにどのように影響しているのかという点に関心を持った。

そこで今回の調査ではチャレンジショップ5店舗のうち2店舗のオーナーの方にヒアリング調査を行うことで、チャレンジショップ経営を通じてまちづくりについてどのように感じているのか、実際どのくらい支援されているか、不満な点はないのかなど事業の実態を明らかにする。

【チャレンジショップへのヒアリング調査】

- ・場所：チャレンジショップ ALEX
- ・時間：AM10:30～11:30
- ・対象：チャレンジショップひだまり代表 福島美子さん
ALEX 代表 田原洋子さん

今回のヒアリング調査はチャレンジショップの中から福島さんと田原さんに協力していただいた。まずチャレンジショップを経営しているだけあり、2人とも非常にまちづくりに積極的でありたくさんのお話を聞くことができた。

まずチャレンジショップという事業についてどれほど理解しているのかについてはさすがに詳しく、ただ空き店舗を利用してお店を経営するというだけでなく、チャレンジショップという事業を行うことで中心市街地に新しい風を入れ、そしてまちが活性化していけばよいと話していただいた。

またチャレンジショップを始めたきっかけについては基本的にポスターやチラシといった広報であり、応募は基本的



図 糸魚川のチャレンジショップ

に自由であり誰でもやりたければ応募をすることができる。しかし、ある程度の審査があり、売り上げの見込みや必要経費など細かく計算して提出する必要もあるというお話を聞いた。特に今回お話をうかがった田原さんの場合はその当時、若かったこともありかなり厳しく審査されたようであり、田原さんもそれに負けまいとかなり頑張ったようである。

今振り返ればそれはこちらがどの程度やる気があるのかを試していたのかもしれないと話していただいた。

具体的な支援については基本的に最初の2年間だけ必要経費の半分を支援してもらえる。またそれ以外にも経営アドバイザーなどに話を聞いたりしてもらえるようである。しかし、アドバイザーも糸魚川の人ではなくどこかから連れてこられたような人であるためもっと糸魚川の昔からの習慣などを理解してもらえるようなアドバイザーに来てもらいたいという不満もおっしゃっていた。

またチャレンジショップの経営といったこと以外にも、チャレンジショップグループという団体を自主的に結成して商店街の清掃活動や八福神のそうじなども行っている。またチャレンジショップができたことで、バスを待っているお年寄りが時間潰しをできる場となり、またオーナーが女性であるので、特に女性客が気軽に入ってきてくれてお話することができるといった人と人との交流の場にもなっている。

この制度がなかったらこのように空き店舗を利用してお店を運営しようなどとは思わなかったし、補助は確かに大切に助かっている。このような事業で市民がまちづくりを行う一つのきっかけになってくれればよいと話していただいた。このまちにはそのようなまちづくりに意欲がある人もいる。その需要もある。そして私たちがこの事業を行いお客様がちょっとでもまちづくりに興味をもっていただきそのお客様からまちを変えていきたい。まちづくりとは行政だけでも市民だけでもなくその両方が協力して行うものだと強く言うておられた。

【感想・考察】

今回のヒアリング調査でまず一番に感じたことは、お2人ともすごく糸魚川に愛着をもっておられてこのまちがとても好きであるということである。だから糸魚川のまちづくりには大変興味をもっており、積極的に参加しておられるのだと感じた。そのような人たちがまちづくりを行うきっかけとしてチャレンジショップ事業は意味があり、それを通じて人から人へその意識が伝わり、広くそのまちに住む人全体でまちづくりを行っていくことができればよいと感じた。

最後に当然の調査にも関わらず、こころよく話しをしてくださって本当にありがとうございます。

4. 提案

今回、糸魚川におけるまちづくりの実態についての調査を行った。そのために支援をする側のまちづくりサポートセンター、そして支援をされる側のまちづくりサポーターズ、チャレンジショップへのヒアリング調査を実施した。

まちづくりサポートセンターでは実際に支援をするというよりは住民の相談相手になりたいと話していた。確かに気軽に相談できる場としてサポートセンターは意味があるかもしれない。しかしそれだけではまちづくりには発展しにくいと考える。行政と住民が一定の距離感を保っているのが現状であり、もっとお互いに緊張感をもつ関係が必要ではないかと考える。だから支援を受ける側のまちづくりサポーターズも資金援助には満足してはいるが実際に支援されているのかといったらされていないと答えていたのではないと思う。

その点、チャレンジショップ事業は行政と住民がお互いに協力している良い例であるといえる。今回のヒアリング調査でチャレンジショップ事業を行っている方たちはみなさん糸魚川のまちづくりにとても関心があり、まちづくりを行うきっかけの一つとしてチャレンジショップ事業は意味があり、またそこから他の人との交流を通じてまちづくりの意識が広がる可能性は大いにある。

このような行政と住民、支援する側と支援される側との距離をもっと縮めてお互いの関係を密接にしていくことが重要である。

5. 感想

M2 小和田 雅史

糸魚川市には、初めて来たわけですが、まずまちなかを散策して印象に残ったことが、完全に車による **door to door** の生活が定着してしまっているということです。このような光景はまちなかのいたる箇所で見受けられました。

またヒアリング調査をしていて印象に残った点は、セブンイレブンが出来た時に話題になってみんなコンビニに駆け込んだ点、車で 2 時間半ほどの距離まで行動範囲圏内である点(買い物なら金沢、富山等に行く)等が印象に残りました。確かにまちなかにある小売店は年齢層を限定している部分もあり、今後もう少し若年層も視野に入れたショップ展開が必要だと思います。

まちづくりに関しては、補助金の額等から見て、なかなか大胆な施策を展開されている印象を受けました。ただ登録されているメンバーを見ていくと、比較的高齢の方々に構成されている団体が多く、学生などの若者の団体はありませんでした。ある一定の年齢層がそのまままちから抜け出しているように感じました。今後、まちづくりの支援で優遇することや地域滞在型の実験的ワークショップを展開することで、県内若しくは隣県の学生らを取り組む必要があると感じました。

M2 中原 聖

今回私は糸魚川市を初めて訪れました。今までは電車の中から糸魚川市を見るだけであったので実際にまちを歩きながら調査することが大変楽しみでした。今回私たちの調査内容はヒアリング調査であったので糸魚川市に住み、実際にまちづくりに携わっている方たちの生の声が聞けてとてもいい経験になりました。行政と住民の考え方のズレなどは今後社会に出て行く私たちにはとても参考になりました。

今回の調査では時間も限られていたのであまりたくさんの箇所を見てまわることができませんでした。また時間があればプライベートで訪れたいと思います。その時は今よりもっとよいまちになっていることを楽しみにしています。

M1 恒川 真康

まちづくりにおいて最も大切なものは、まちのハードとソフトの部分の両面を統括的な視点から見て、そのときのまちの状況にあったまちづくりの政策等の提案を行い、町全体で議論しあうことだと思う。

今回の糸魚川市における調査では、そのハード的な部分（市役所）とソフト的な部分（まちづくり団体等の市民）が協働してまちづくりを行うための入り口となりうる市の政策「まちづくりサポートセンター」についての評価、考察を行った。

この市では、市と団体がお互いに違うことを行っており、協働という私の考えるまちづくりの理想の形はとられていなかったが、お互い「糸魚川のために何かしよう」という積極的な気持ちが前面に出ていて、またその気持ちは積極的な活動にも結びついていたように思う。それらのことを考えると、糸魚川のお互いが別々にいいものをつくりあっていき、助け合える所は助け合うという市と団体のスタイルは今の所は成功していると言えそうだ。

しかし、このスタイルは時間が経つと、お互いのまちづくりの考え方に行き違いをうむようになりかねない。市役所、まちづくり団体共に行き違いのないようにコミュニケーションをしっかりとって欲しい。

B4 豊島 祐樹

糸魚川という地名はよく聞いたことがありましたが、実際に行ったことはありませんでした。今回、初めてゆっくりと糸魚川の市街地を見ることができました。市街地を見て回った中で、商店街の雁木がとても印象的でした。古くからあるその地域特有のものは財産だと思います。糸魚川の財産を未来に残して欲しいと思いました。

糸魚川の中心市街地は海が近く、自然が多く感じられました。海のすぐ近くにバイパスが通っているのがとても勿体無いと思いました。海沿いで見ると夕日はとても綺麗でした。

糸魚川で1つ大きな問題だと思ったのは大学や短大、専門学校がないということです。糸魚川で生まれ育って、高校まで糸魚川で生活してきた子供が、高校卒業とともに外へ出てしまうと住民の方から聞きました。また、外に出た人が身に付けた専門知識を生かすよ

うな職業があまり糸魚川にないという話も聞きました。学生がいないと街に活気が出ないと思います。大自然が溢れた糸魚川で、農業の学校を開校するなど、学生が地域に集まる工夫が必要だと感じました。

今回は糸魚川の中心市街地しか見学できませんでしたが、次に来た時にはもっと色んなところを見て回りたいと思いました。

B4 本館 孝文

今回のゼミ研修旅行で初めて糸魚川市を訪れたので、旅行前には何のイメージも掴めな
いまま、雁木作りとヒスイが有名ということぐらいしかわかりませんでした。実際行って
みると、やはり雁木作りを活かした特殊な町並みや歴史的建造物があり、街の歴史を感じ
ることができました。また、海へと続いている細街路も印象的で、海にでるときれいな夕
日を見ることができました。是非、まちづくりに活かして欲しいと思います。

私たちのグループではハード面ではなくソフト面でどのようにまちづくりが行われてい
るかということから、市役所に設置されたまちづくりサポートセンターの担当者の方、住
民の側ではまちづくりサポートセンターで団体情報を提供している団体の代表者の方と市
の空き店舗対策事業の一環であるチャレンジショップのオーナーの方にインタビューを行
いました。それぞれのインタビューではっきりしたことは、街を住みよくしたい、活性化
させていきたい、そのためには市民と行政が力を合わせていかなければならないというこ
とを共通認識として持っているということでした。糸魚川市に限った事ではないのですが、
違う立場で違う考え方を持つ方々が同じ方向に突き進むまちづくりというものは力強いと
思います。

時間も限られていたので今回インタビューさせていただいた方は3名でしたが、もっと多
くの人たちの意見を聞いてみたかったです。しかし、調査以外のときでも、住民の方々と
接することができたのですが、とても暖かい人たちばかりで、気さくにお話することがで
きました。また、自分たちの街に誇りを持っていることも感じ取ることができ、こういっ
たものが糸魚川市を支えているのではないかと思います。

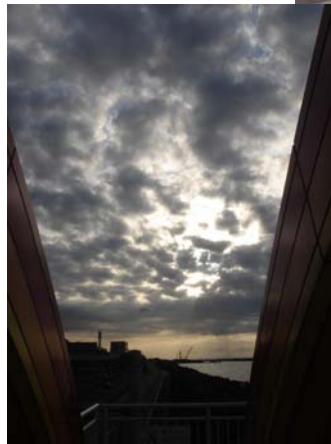
最後に、お世話になりました糸魚川市役所の方々、住民の方々に感謝の意を表します。本
当にありがとうございました。

注

- 1) ひらつか駅前どっとコム <http://www.hiratuka-ekimae.com/challenge.html> より一部引
用
- 2) ひらつか駅前どっとコム <http://www.hiratuka-ekimae.com/challenge.html> より一部引
用
- 3) 三条ミニチャレンジショップ <http://www.tmo-sanjo.org/showbydo/> より一部引用

NO BORDER

～車いす利用者に配慮したまちづくり～



M 2 松谷 圭祐

M 1 生駒 奉文

西本 瑛一

B 4 串田 隆昭

竹迫 圭祐

深谷 巡



はじめに

2006 年 9 月 22、23 日に、糸魚川市ではどのようなバリアフリー整備が行われているのかという興味を抱きながら、今回の調査を行った。

糸魚川市は、都市再生整備計画の中のハード事業として、市内の中心市街地を横断する中央通りの歩道と車道の段差を解消するといったバリアフリー整備に力を入れており、ソフト事業としても、中心市街地の危険箇所や問題点を調査し、それらの情報を記載したマップを作成し、まちなかに設置することを目指している。

元来、バリアフリーというものは、高齢者や障害者だけではなく、全ての人にとって日常生活の中で存在するあらゆる障壁を除去することを意味する。しかし、日頃、バリアフリーを意識して、高齢者や障害者といった弱者の視点でまちを観察することは少ない。そこで、今回は車椅子を持ってまちへ繰り出すことで、日常生活では気づかれないと思われるバリアフリーに関する要素を明らかにすることとし、糸魚川市のバリアフリー整備の現状と今後のバリアフリー整備についての提案を報告することを目的としている。

調査内容

- ・ 市役所へのヒアリング

市役所の方に糸魚川市のバリアフリー政策についてヒアリング調査を行う。

- ・ 現地調査

障害者が 1 人でも安心して糸魚川市を楽しんでもらえるように、常に誰かが車椅子に乗り中心市街地を走行することで、車椅子利用者の視点から身をもってバリアフリーの状況を体験し、肌で感じる。

調査コースは、①市役所周辺→②中央通り→③糸魚川駅→④ヒスイ王国館→⑤銀座商店街→⑥本町通り→⑦海に見える浜通り（路地）→⑧市役所跡地

- ・ 北陸家具へのヒアリング

北陸家具の方に、糸魚川市のバリアフリーの現状や電動車椅子利用者についてヒアリング調査を行う。

- ・ スケジュール

<1 日目>

13:00 糸魚川市役所訪問

15:00 現地調査開始

17:30 現地調査終了

<2 日目>

9:00 現地調査開始

10:30 北陸家具ヒアリング調査

13:00 2 日目調査終了



図1 調査ルート

1. 糸魚川市役所へのヒアリング（バリアフリーについて）

(1) 日時：2006年9月22日（金）13:00～14:30

(2) 場所：糸魚川市役所

市役所：「バリアフリー整備に関しては、12m 幅員である中央通りの歩道と車道の段差を解消してほしいとの声があり、ハード整備として、その中央通りの改善を行う予定。」

松谷：「バリアフリー整備について、ソフト面での展開で考えていることをお聞かせください。」

市役所：「例えば、危険な箇所を示したマップ作成などを考えている。」

松谷：「中央通りの改善を行うとのことですが、その他の整備の予定はありますか。」

市役所：「中央通りが特にひどいので優先的に行うが、他にも白馬通りや本町通りについても段差の解消を行いたい。」

松谷：「バリアフリー整備は観光客の呼び込み等においても重要だと考えられますが、現在の観光客の入り込み数や、まちづくりにおける観光客の位置付けをお聞かせください。」

市役所：「現在の観光客は少ないが、ヒスイや温泉、海、スキーといった観光資源は多く眠っていると考えている。また、駅から海までが近い点、北陸新幹線が開通すると東京方面から来て初めて海が見える場所である点、合併した町との交流、にポイントを置いて観光に結び付けたい。」

松谷：「中心市街地において現時点で観光客が訪れている施設等はどこですか。」

市役所：「ヒスイ王国館、本町通りなどの酒蔵、相馬御風記念館が挙げられる。」



2. 市内バリアフリー探検（調査地①～⑥）

【市役所（調査地①）】



<短所>

・正面玄関に行くのに対してスロープまで至る動線が長く感じられる。

<長所>

・スロープ自体はとても緩やかで、幅員も広く、段差が小さいため走行がしやすい。
・バスの時刻表も車椅子から見える高さに設置されている



【中央通り（調査地②）】



<短所>

・幅員が狭くなる場所があること、また歩道に凸凹や傾斜があること、そして歩道と車道の間に段差があることで横断歩道からわたるときなどの走行に悪影響を及ぼす。

<長所>

・幅員が狭い部分もあるが、広い部分もあり、その箇所では走行がしやすい状況である。



【糸魚川駅（調査地③）】



＜短所＞

- ・券売機は車椅子から十分に届く距離にあるが、路線図や料金表が見上げなくては見る事ができないため、改善が必要と考えられる。

＜長所＞

- ・駅の中はとてもフラットな状態であり、走行が非常にしやすい。
- ・改札も車椅子でも十分に通ることのできる空間となっているので評価ができる。
- ・また上記でも述べたが、券売機が手の届くところにあることは評価できる。



【ヒスイ王国館（調査地④）】



＜短所＞

- ・駅から最も近い入り口には階段しかなく、入ることができない。
- ・車椅子で入ることのできる入り口に行くには、急な斜面や凸凹したところを通らなければならないため改善が必要。
- ・店内の高いところのものをしっかりと見る事が難しい。



＜長所＞

- ・店内においてはとてもフラットで通路も広い
ため走行がしやすい。
- ・トイレやエレベーターが完備されているため
評価できる。

【銀座商店街（調査地⑤）】



＜短所＞

- ・歩道と横断歩道の間に段差があるため走行がしにくい
- ・歩道に凸凹がある箇所がある。

＜長所＞

- ・歩道はとても広く、障害物もないため走行がしやすい。
- ・アーケードがあるため、雨天時や冬季に悪影響を受けにくく走行がしやすい。

【本町通り東部（調査地⑥）】



＜短所＞

- ・車いす利用者にとっては使いやすい歩道と考えられるが、向かいの歩道へ渡る横断歩道などの若干の段差をなくせば、より走行しやすい歩道になると考えられる。

＜長所＞

- ・幅員が広く、車いすでの対面走行時でも全く問題なく、非常に利用しやすいと考えられる。
 - ・雁木作りを利用しているので、風雨、雪を避けての走行が可能。通路の隅には休憩出切るベンチが設置してあり、高齢者や体の不自由な方でもゆとりを持って買い物できるように設計されている。
- 雁木を生かし、かつ走行しやすい歩道であるので今後生かしてほしいと思う。

【本町通り中部（調査地⑥）】



<短所>

- ・東部と違い、雁木の高さが低く幅員も狭い。車いす走行者が対面走行者とすれ違うことは出来ない。また、車いす走行者に介助者がつく場合、雁木の高さが低く、非常に走行しにくい。
- ・雁木に連続性がなく、雁木と雁木の間の通路には段差も見られ、介助者無しでは走行しにくい。雁木の下に、自転車等を停めている場所も多く、通行の妨げになることが考えられる。

<長所>

- ・雨天時、冬季にも走行しやすい。

→本町通り東部のバリアフリーが考慮された歩道から、中途半端な整備状態の雁木通りになっているので連続性が必要だと考えられる。

【本町通り西部（調査地⑥）】



<短所>

- ・雁木がないため、風雨や降雪を避けることが出来ない。
- ・路上駐車が多く見られ、走行の妨げになる部分が多く、危険である。これまで続いていた雁木の通りが突然なくなるため、連続性という点でも問題がある。

<長所>

- ・歩道はなく車道のみとなっているが、段差はないため、走行はしやすい。

→安全性の確保のため、歩道の設置が必要。また東部、中部で雁木が用いられているので、西部でも設置し、より連続的にする必要がある。

【海が見える浜通り(路地) (調査地⑦)】



<短所>

- ・夕日が綺麗な海岸に近いにも関わらず、国道8号線の影響で近づくことが出来ない。
- ・道が狭く、多少の勾配があるので、介助者なしでの走行は困難。

<長所>

- ・段差がなく、介助者がいれば走行が可能。
- ・車いすからでも夕焼けが綺麗に見える。



→近所のお爺さんの話によると、昔、この辺りはビーチでデートスポットだった。テトラポットで埋め尽くされた海岸線だが、今でも綺麗な夕日が見えるため、公園などを設置し、住民が寛げるような場を提供してみてもどうか。

【市役所跡地 (調査地⑧)】



<短所>

- ・バリアフリーを考慮してつくられた公園であるが、多少勾配のある公園なので、使用しにくい。

<長所>

- ・走行しやすい舗装で、段差もない。
- ・トイレが広く、バリアフリーを考慮した作りとなっている。



→バリアフリーを考慮した公園として利用しやすいと考えられるが、休憩スペースなどが少ないと感じた。夕日も見えるので多少の改良で、今まで以上に利用しやすく、人気のある公園に変えることが出来るのではないだろうか。

3. 車椅子利用者と北陸家具へのヒアリング

【電動車に乗っていたおばあちゃんへのヒアリング】

(1) 日時：2006 年 9 月 22 日（土）10:00 頃

(2) 場所：中央通りポケットパーク近くの路上

（車いす体験中の当調査グループを見て）

おばあちゃん：「車いす大変そうだね。電動車を貸してくれる所を知っているよ。」

松谷：「本当ですか。それはどこですか。」

おばあちゃん：「パチンコ店の向こうにある北陸家具。」

松谷：「走行中に歩道を走らないのですか。」

おばあちゃん：「段差があるので車道を走っているよ。」

松谷：「お店に入るときは、店の前に電動車を置いて、徒歩で入るのですか。」

おばあちゃん：「そうだよ。」（電動車の後ろに杖を挿しているのが見える）

一同：「ありがとうございました。」

おばあちゃん：「車いすに乗っているのは一時的なケガなんでしょ？がんばってね。」

串田：「いえ、本当は歩けるんです。車いす体験中なんです。」

おばあちゃん：「あら、そうだったの。あはは。」

一同：「すいません。あはは。」

おばあちゃんの話聞き、北陸家具へ。

北陸家具は、一般の家具はもとよりそれに附帯する商品や介護用品を販売している。キャッチフレーズは“住いのパートナーHOK 北陸家具”。

【北陸家具へのヒアリング】

(1) 日時：2006 年 9 月 22 日（土）10:30～11:30 頃

(2) 場所：北陸家具

西本：「電動車をレンタルしているという話を聞きました。そのことについてお聞かせください。」

北陸家具：「介護保険制度を利用して、ひと月自己負担 2000 円でレンタルしている。」

松谷：「現在借りている人はどのくらいいますか。」



北陸家具：「13名。このうち中心市街地では2名。残りは『谷』（早川など）。高低差が比較的大きい地区の人が多。自分の足で歩くのが困難な人が近くの商店に行くために借りる。」

松谷：「中心市街地で電動車を利用している方から、路面状態への不満やまちづくりについての要望を聞いたことはありませんか。」

北陸家具：「とくにない。」

松谷：「中心市街地において、例えば段差を解消するなどの整備をしたら電動車を利用する人が増えると思いますか。」

北陸家具：「わかりませんが、そうかも知れないですね。」

4. 提案

駅やヒスイ王国館といった施設では、入り口部分の段差がなく、また、施設の内部も車いすで十分走行が可能であった。よって、施設の内部はバリアフリーに対応しているが、施設までのアプローチの部分は坂や段差が多く、対応がなされていない。

駅前銀座商店街や本町通り商店街では、雁木やアーケードがあり、車道部分と分けられており、さらに天候の影響を受けにくいという点から走行がしやすく、歴史的な部分だけではなく、バリアフリーの観点からも重要であると思われる。

断続的にバリアフリーがされているため、歩道間の境目で段差が生じており、走行の支障になるという箇所が多かった。

中心市街地すべてをすぐにバリアフリー化することは実際には難しい。そこで、「歩けるまちづくり」としてのモデルコースを策定し、そこから重点的に路面の整備等を行うことを検討してはどうか。例えば、「食べ歩きコース」や「はしごしたい飲み屋コース」、「身の回り品のコース」など、複数のコースを設定しても良いと思う。コースとして設定すれば、バリアフリーが「細切れ」になることなく、連続性がでるのではないか。このようなコースマップを、みどころや危険箇所とともに示せば、車いすなど身体障害者のみならず観光客にとっても安心して歩けるマップとなる。

また、前提となるまちづくりの計画では、身体障害者だけでなく、健常者も歩いて楽しいまちにしていけることが重要である。健常者ですら歩かないまちは、車いすで歩けるまちにはなっていない。コンパクトにまとめた中心市街地のメリットを生かして、車ばかりに頼らず誰にとっても歩けるまちづくりが求められる。

また、バリアフリー化の整備は、車いすや電動車でも安心して通行できるようにするため、担当者が実際に車いすを体験してみると良いと思う。今回の調査では、実際に体験して見えてきたことが多かった。

以下に、場所ごとの提案を述べる。

【糸魚川駅前】

- ・銀座商店街への通行時に車道と歩道の段差が激しい
→段差の解消と共に、歩道路面の平坦にすることも検討

【ヒスイ王国館周辺】

- ・館内は車いすでも比較的移動しやすい
- その反面、
- ・アプローチが悪い

→交通の基点である糸魚川駅からの最寄りの入り口のエレベーター設置を検討

【本町通り商店街】

- ・雁木が印象的
- ・雁木の下は足元は段差が目立つ

→雨や雪から通行人を守るためにも雁木を生かした商店街作りをしつつ、協定などによって、足元の段差を解消、路面の改良を行う

5. 感想

◆深谷（4年）

- 全体を通して、雁木やアーケードがあり、風雨時や冬季でも車椅子での走行がしやすい特徴があった。けれども横断歩道から歩道へのアクセスや駅から歩道までのアクセスの間に段差が生じていて、そこで危険性があると感じた。今後このような連結の部分の改善を行い、足元の連続性を整えていけば、町全体を楽しく歩いて回れるのではないかと感じた。
- 駅やヒスイ王国館、市役所などの内部では、床がとてもフラットな状態で、車椅子に乗っていてもスムーズに走行することができた。また自動ドアやエレベーター、券売機、スロープなどの設備もバリアフリーに対応していて良かったと思う。
- 糸魚川は初めて訪れたが、町の人がとても親切で、海も山も見ることができ、雁木という珍しいものをみることができた。町全体がコンパクトなので歩いてみて回れるし、ところどころに観光スポットもあり魅力があるが、もっと活気があれば観光地になるので少しもったいないと感じた。また何年後かに訪れてみたい。

◆串田（4年）

- 中央通りでは歩道部分を車いすで走行することが出来たが、駐車場の前などの車が乗り入れる部分では傾斜がきつく走行が困難な部分があった。他の通りも同じように走行が可能な部分と困難な部分の連続で、全体では車いすでの移動が困難であると感じた。
- 歴史的なものというイメージの強い雁木が、バリアフリーにも利用できる可能性があるというのは驚いた。
- 途中で電動車いすの使用者にあったが、歩道は走りづらいということだった。そのため車道を走行していたので、場所によっては大変危険なのではないかと思われる。
- 車いすで走行しているときに、いろいろな方から声をかけていただき、とても暖かい町であると感じた。住民の方の意識の中には、バリアフリーの意識がきちんとあるのではないかと思う。

◆竹迫（4年）

- 市役所や市庁舎跡公園など、比較的新しい建物に関しては点字ブロックやスロープ、車椅子利用者が使用しやすいトイレなど、バリアフリーが行き届いているように感じた。
- 市役所で中心市街地におけるまちづくりの概要を伺った際には、中央通りを中心にハード整備を行い、バリアフリー化していくという説明を受けた。確かに駅周辺の道路であるにもかかわらず、歩道と車道の段差などの課題が解消されていない現状をみると、市の取り組みにも納得ができる。まだまだこれからという印象を受けた。
- 銀座商店街の通りでは、車椅子での走行はしやすかった。駅前から元々市役所があった

場所へと続く通りとして重要な役割があり、重点的に整備をしたのだなと感じた。通り沿いにあるポケットパークなども素敵な空間だと思う。

- ・ 糸魚川本町通りでは、雁木や絵馬の看板、八福神などおもしろい取り組みがなされていた。西に進むにつれて雁木の統一感（連続性）がなくなったり、歩道の幅員が狭くなったりと、バリアフリーの観点からも遅れている印象を受けた。
- ・ 途中、電動車椅子で車道の路肩を走行している方がいたので話を伺ったところ、歩道と車道に段差があるからいつも車道を走行しているとのことだった。車椅子利用者が安心して暮らせる街づくりとは程遠い現状を見たような気がした。
- ・ 中心市街地の活性化やバリアフリー化など糸魚川市の課題は多いと思うが、一つずつ解決していかなければならない。ヒスイや夕日のきれいな海など資源は豊富にあると思うが、十分には活かしきれていない印象を受けた。商店街での取り組みや様々なイベントを通して、魅力のあるまちづくりを行ってほしい。

◆西本（M1）

- ・ 市役所でのヒアリングでは、市内のバリアフリー化は行いつつあるとのことであったが、糸魚川駅北の中心市街地では歩道のない道路が多く、まだまだこれからという印象を受けた。市役所など核となる公共施設やその周辺では、歩道のフラット化や視覚障害者誘導ブロックの整備、スロープの設置等が行われており、ひどく遅れているという印象は受けなかった。
- ・ 本町通りの銀座通り方面は雁木を生かし、歩道の幅員も広く、高齢者や体の不自由な方への配慮もされた作りと感じたが、塩の道街道方面へ向かうにつれてその整備が中途半端なものになっている印象を受けた。
- ・ 糸魚川駅北の中心市街地はバス利用者が極端に少ない印象を受けた。車中心の生活からの転換を目指すために、バスの利点をアピールし、様々なサービスを開発していくのも重要だと感じた。また北陸家具において電動車椅子の貸し出しを行っているとの事であるが、中心地での利用者はわずか2名と少なく勿体無い印象を受けた。貸し出し方法や制度を工夫して利用を促進する事で、自動車利用を抑制出来るのではないかと感じた。
- ・ 市全体を通して若者の気配を感じられず、中心市街地の空洞化を顕著に感じた。中心市街地居住者も「街が死んでいる」と述べる状態なので、旅行者の集客より、まずは若者が魅力を感じるような店舗の設置やイベントの開催などを行って、活気付ける必要があると感じた。
- ・ 個人的な感想として、糸魚川市中心市街地の商店や居住者は気さくな方が多く、いきなり訪問した我々の面倒臭い質問に対しても丁寧に答えて頂き、非常に嬉しかったです。市役所の皆様にも様々な説明を丁寧に行っていただき、本当に有り難うございました。

◆生駒（M1）

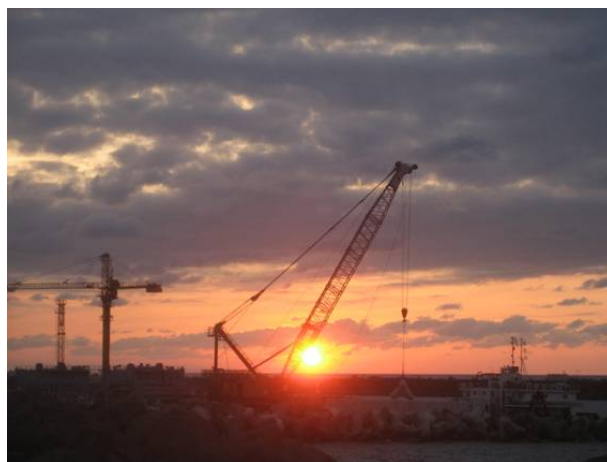
- ・ 今回の研修旅行では、最初に市役所で現在の市の施策などについてお話をお聞きしましたが、我々の調査内容であったバリアフリーに関しては、「行おうと思っている。今後検討していく。」など、後回しになってしまっている印象を受けた。
- ・ 中心市街地は、コンパクトにまとまっている印象を受けたが、日中にも関わらず、人通りが非常に少なく、活気もあまり感じられなかった。中心市街地には、雁木など魅力的な要素があるので、それらを生かして活性化を行っていく必要性を強く感じた。
- ・ 糸魚川市内の人々は非常に気さくで、突然訪問した北陸家具の方や、北陸家具のことを教えていただいたご年配の方など、皆さん非常に親切でありとても人情味あふれる素晴らしい街であると感じました。こういった人的な魅力も街を活気付ける良い起爆剤になりうるのではないかと感じた。
- ・ 今回の調査で、生まれて初めて車いすに乗ったが、見るのと実際に乗るのでは全く別物で、車いすを利用されている方の苦労や悩みが、ほんの少しでも理解できたのではないと思った。個人的には、段差や傾斜が思っていたよりも障害になることがわかり、そういった障害を早急に解消することが、非常に重要であるように感じた。

◆松谷（M1）

- ・ 糸魚川を歩いていて印象的だった雁木は、「長野の小布施を参考に戦後取り入れたもの」という話をヒアリング先である北陸家具の従業員の方から聞きました。もっと歴史のあるものと思っていたので意外でしたが、雁木は僕にとって新鮮で興味深いものでした。民有地と公共空間との関係がおもしろいと思ったし、風雨から通行人を守るその立ち居は雨の日に傘を差し出すようなおもてなしの心を感じました。
- ・ しかし、その集合体としての雁木は今の糸魚川のまちを象徴していると思います。つまり、例え一軒一軒の雁木を整備していても、それが不連続であるのが見受けられます。民有地内なので難しい面はありますが、雁木の下の通路のレベルはぜひ統一して頂きたいです。今回は実際に車いすに乗りながらの調査だったので、特に段差の多さが気になりました。公道に関しても同様です。
- ・ 街全体についても、雁木をはじめ、海や温泉など、まちづくりのきっかけとなる資源は多くあるのに、それらに繋がりが出来ておらず、もったいない印象を受けました。コンパクトな街にこれらの繋がりが出来ればもっと魅力的になると感じました。

糸魚川市スナップショット





あとがき

明治 21 年に自然発生的に形成されてきた集落が集約され、昭和 28 年に市制を施行された糸魚川の町は、平成 17 年にさらに合併により、大きく成長してきた。多くの観光都市と同じように、町の中心部では、昔ながらの伝統的な居住環境を保存し、中心市街地を観光地とするような計画があり、市役所の関係者もこれからの観光による地域興しに熱心で、観光宣伝のノウハウについて悩んでいるようである。スキー、海水浴場、キャンプ場、お酒など、ほかの町にもある観光事業の要素が一杯あるだけではなく、糸魚川の雁木、谷村美術館、JR 駅レンガの車庫、山からきた海岸のヒスイ、ほかの町にない様々な素晴らしいものがあり、まちの個性をいかにつくり出すかは、大きな課題と思われる。

まちづくりセンターに登録されているまちづくりの団体の多さに驚いた。これにより、糸魚川の皆さんが元気に楽しく暮らしている様子が伺える。また、住民の手で作られたトランプのような糸魚川の「百科事典」があり、その面白さに感動した。そのなかでも、昔からのまちなみを維持してきた中心地の雁木が記載されている。それは、伝統的な生活スタイルの象徴とされ、古くから形成されてきた町の土木的財産として大切に維持してきて、さらに新しい価値を作り出している。

経済発展のために、町の商店街や観光地に元気付けることが大きな願望であるので、新幹線の整備なども望まれている。しかし、これからの市街地整備には、伝統的な要素は、トランプにあるだけではなく、目に見えるまちの形にしていきたい。なお、新しい新幹線駅の整備だけではなく、レンガの車庫もぜひ残していきたい。

糸魚川の住民は、非常に親切で、建物の建て方、町の祭りの歴史など様々なことを語っていただける。そのお陰で、今回のゼミ研修に参加して、こころが暖かく、糸魚川というまちに対する理解が深まった。

沈 振江（助教授）

糸魚川のまちを訪れるのは今回が初めてでした。「フォッサマグナのまち」という印象がどうしても強かったのですが、実際に訪れてみて、自然と歴史に恵まれた魅力のあるまちだということがよくわかりました。

まちの眼前に広がる雄大な日本海もさることながら、黒瓦の屋根並みの背景に広がる力強い姿の山並みへの眺望も素晴らしいと感じました。とくに砂丘上の小道を巡ると、寺社の石積みや森、醸造蔵の雄大な薨、風情のある料亭街が次々と現れ、所々から海原と山並みへの眺望が同時に得られるなど、何度でも歩いてみたくなる道でした。これらを生かして、雁木や塩の道だけでなく、まちの成り立ちをトータルに捉え、磨きをかけていくことにより、さらに魅力的なまちになると感じました。

学生たちは、まちを歩き、糸魚川の方々にお話を伺う中で、多くの刺激を受けたようで

す。彼らが、そこで得たものは、この報告書ではまだ十分に表現できていないかもしれませんが、今後の彼らのキャリアの中で必ず役立ててくれるものと信じています。糸魚川市役所の皆様、町民の皆様に、この場をお借りして、あらためて謝意を表したいと思います。どうもありがとうございました。

小林 史彦（講師）